

事業名：研究開発学校（文部科学省）

学校名：尾道市立土堂小学校

所在地：尾道市西土堂町6番44号

HP：http://www.onomichi.ed.jp/tsuchido-e/

学校規模：10学級 271名

## 1 研究の概要

### （1）研究テーマ及び研究のねらい

#### ①研究テーマ

グローバル時代を切り開くたくましい人間の育成  
—新しい教育システムとカリキュラムの追求を通して—

#### ②研究のねらい

本校は平成14年度から5年間コミュニティ・スクールとしての実践を継続し、地域と共に学校を運営していくことを中心的課題としてきた。学校運営協議会より建議された5つの「ミッションステートメント」を具現化すべく本校独自の教育内容を構築してきた。具体的には「ミッションステートメント」の理念から以下の3点について重点的な課題を設定した。

- ・基礎学力定着の取組み
- ・特設3教科（郷土科・情報科・英語科）の実践
- ・基本的生活習慣の確立

基本的生活習慣の確立は心と体の健やかな成長を促し、基礎学力定着の取組みから揺るぎない基礎力を培い、それを土台とした特設3教科の実践を核にして、21世紀を生き抜く子どもの育成をめざし、新しい教育内容の創造に取り組んでいる。

### （2）研究組織・体制

研究推進委員会	郷土科部会（5名）
校長・教頭	情報科部会（4名）
部会チーフ5名	英語科部会（4名）

### （3）研究内容（実践内容）

#### ①基礎学力定着の取組

##### ア) モジュールタイムの設定

読み書き計算の徹底反復により、基礎学力の定着と向上を目的としたモジュールタイムを設定した。

		火	水	木
学級統一	15分	国語的内容	国語的内容	国語的内容
学級統一	15分	算数的内容	算数的内容	算数的内容
学級裁量	15分	(例)社会	(例)英語	(例)情報

「モジュールタイム」とは、表のように火・水・木の1校時を15分×3とし、45分間をフルに基礎基本の徹底反復の時間として集中的に取り扱うものである。

##### イ) 辞書引き

低学年	国語辞書引き
中学年	漢字辞書引き・国語辞書活用の日常化
高学年	国語辞書及び漢字辞書活用の日常化

辞書に慣れ親しむ活動を通して、児童の語彙習得の向

上を図る。分からないことは自分で調べる習慣をつける。

##### ウ) 漢字前倒し学習

\*詳細は実践事例として後述。

##### エ) そろばん

1年生	指の運動・1けたのたし算ひき算・読み上げ算 2けたのたし算ひき算（答えが3けたにならない）
2年生	2けたのたし算ひき算（答えが3けたもある） ・読み上げ算・フラッシュ暗算

そろばんの玉という具体物を使用することで、低学年を中心に数感覚を育成する。同時に手指の反復運動により脳の活性化を図る。

#### ②特設3教科

特設3教科は以下のようなねらいのもとで実施している。

##### ア) 郷土科

郷土に関する具体的な活動や体験を通して、郷土への理解と愛情を育み、そのよさを大切に守ろうとする主体的な生き方の基礎を養う。

##### イ) 情報科

情報機器の扱いや活用の学習を通して、情報活用やコミュニケーションの能力を高めるとともに、情報社会に主体的に参画するための資質や態度を育てる

##### ウ) 英語科

英語や異文化に慣れ親しむ活動を通して、小学校英語科の基本的な能力を身に付けるとともにコミュニケーション能力を高める。

#### ③基本的生活習慣の確立

基本的生活習慣の確立は心と体の健やかな成長を促し、学習を継続していく集中力と、夢と志に向けてたゆまぬ努力を惜しまない強い意志の育成に資すると考える。

キーワードを「早寝・早起き・朝ご飯」とし、「生活アンケート」による実態把握、家庭地域との連携・協力により実践している。

### （4）授業改善の視点

#### ①基礎学力定着（モジュールタイム）

ア) モジュールタイムにおいて、集中力を高め、反復学習での速さ、正確さを高めるために、「スピード・テンポ・タイミング」をキーワードに研修を進めている。これにより日常授業の高速化と内容の充実を図る。

イ) 「辞書引き」「漢字前倒し」「そろばん」は、基礎学力の定着と指導の継続という視点から、指導開始時期の見直しを行った。また、これらの学習で身に付けた力を、教科では自ら調べまとめる活動において活用し、「そろばん」により育成した数感覚は、低学年において具体から抽象思考に移行する際に活用できるようにする。

②特設3教科

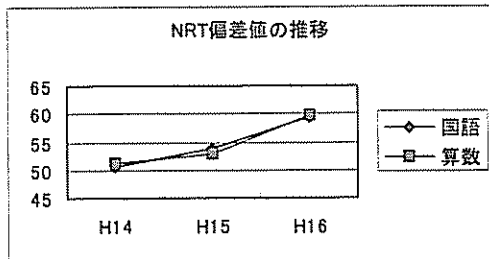
- ア) 3教科間、あるいは他教科との関連を図ることで、学習した内容が生きて働くように工夫する。
- イ) 地域の人材を活用することで、学習内容の深化とコミュニケーション能力の育成が図れるようにする。
- ウ) TTによる指導方法の工夫改善と複数配置による学習内容の充実。

2 研究の成果と課題等

(1) 成果

①基礎学力定着

ア) NRT標準学力テストの推移



イ) TK式標準学力テスト・平成17年度

偏差値	尾道市	土堂小
国語	53.4	58.5
算数	53.6	58.4

NRT及びTK式標準学力テスト偏差値については、平成14年度の50程度から平成16年度、17年度には60前後に向上している。

- ウ) 学校運営協議会実施の平成18年度アンケート結果
  - ・基礎学力向上の取組みに対する保護者の満足度 92.0%
  - ・児童の満足度 90.0%

②特設3教科

- ア) 学校運営協議会実施の平成18年度アンケート結果
  - ・郷土科に対する児童の満足度 93.0%
  - ・英語科に対する児童の満足度 78.0%

イ) 英語検定試験

- ・18年度現在英検5級に19名合格。4級合格1名。

ウ) ローマ字(50音)タッチタイピング記録

- ・2年生平均46秒(最速24秒)

③基本的生活習慣の確立

<平成18年度生活アンケート結果>

- ・89.4%の児童が10時までに就寝している。
- ・95.3%の児童が6時30分までに起床している。
- ・65.4%の家庭で朝食をご飯とみそ汁等に行っている。
- ・テレビやゲームの視聴時間が2時間以内の児童 94.2%

(2) 課題

- ・特設3教科実践と基礎学力定着の実践と研究課題が多いため、部会を組織しての研修体制を取るなど工夫を行っているが、それぞれの研究にかけられる時間が十分とは言えない。

- ・特設教科において、郷土科の知識理解面を問う評価については、ペーパーテストを作成して行っているが、文字による評価が困難である情報科、英語科の評価方法について課題が残る。

(3) 今後の改善方策等

- ・作成した教材や指導法を整理し、今後の実践に有効に活用できるようにしていくこと。

3 実践事例

(1) 国語科における「漢字前倒し指導」

(2) ねらい

新出漢字の指導を前倒しして、漢字習得率の向上を目指す。つまり、漢字をまとめて学習することにより、その後の反復学習を可能とする。

(3) 方法及び計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	1年分の漢字前倒し学習		1年分漢字の徹底反復学習 (目標) 定着率90%達成				辞書引き学習と併せて熟語学習 (目標) 語彙を増やす			総復習		

- ①国語科の指導計画を変更して、漢字指導に関する指導については5月までに1年間の漢字指導を終える。
- ②6月から通常の教科書単元に入る。6月から10月までの4ヶ月間は、家庭学習やモジュールタイムの時間等を活用して、学年全漢字の徹底反復学習を行う。児童全員が定着率90.0%に達することを目標とする。
- ③11月から「辞書引き学習」と併せて、学年漢字を使った熟語の読み書きを行い、語彙を増やすようにする。
- ④3月は総復習とし、学年や個の実態に応じて、漢字検定等に挑戦したり、前学年の漢字の復習や次学年の漢字を発展的に取り扱う。

(4) 指導方法の工夫

①音読

漢字学習の基本は、まず読めること。丁寧読みから速読等反復練習する。単語ではなく短文として漢字を読む。

②部首の活用

部首とその意味を先に覚えることで、新出漢字の意味や成り立ちの理解を深める。

③情報機器の活用(漢字学習ソフト+タブレットPC)

漢字の筆順ソフトを使用して、筆順の個別指導をする。

④個人記録を取る

漢字習得率の個人記録を取って、個人の伸びを実感させる。

(5) 成果

平成17年度末に漢字検定試験を1年生から6年生までの全児童が受験した結果、合格率96.9%を達成。平均得点率も94.8%の高得点であった。漢字、語彙の習得により培った力は読書の充実と読解力の育成にもその効果が表れている。